



SPRING 2022

情報メディア創成学類 / 知識情報・図書館学類

目次

大学編

—はじめに	p.2—
—一年間の流れ	p.4—
—よく使うサービス	p.6—
—共通科目	p.7—
—創成の科目	p.8—
—知識の科目	p.9—
—大学説明会（知識のみ）	p.11—
—知識の主専攻について	p.12—

生活編

—生活体験記 春日宿舎 Global Village アパート 自宅通学	p.22—
—(おまけ) つくばらーめん 10 選	p.26—
—春日エリア	p.27—
—周辺マップ	p.28—
—用語集	p.30—

入試編

—様々な入試形態	p.14—
—合格体験記	p.15—
情報メディア創成学類	
学類・専門学群選抜 [前期日程]	
推薦入試	
アドミッションセンター入試	
国際科学オリンピック特別入試	
知識情報・図書館学類	
学類・専門学群選抜 [後期日程]	
推薦入試	
アドミッションセンター入試	

—学類の略称・表記について—

筑波大学では、各学類に様々な略称がつけられています。

情報メディア創成学類は「メ創」、「創成」、「mast (マスト)」など、知識情報・図書館学類は「知識」、「図情」、「klis (ケーリス)」などと略されます。

本誌内でもこれらの略称が用いられている箇所が多々あります。ご了承ください。

はじめに

情報メディア創成学類長より

2007年に創設された情報メディア創成学類も、15年が経過して2022年度を迎えることとなりました。みなさんも実感されているとおり、2020年の初頭から発生した新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界の様相は一変し、大学を取り巻く環境も大きな影響を受けました。授業はほとんどオンライン実施となり、クラスメートと直接話すことも、海外に留学することも困難になりました。筑波大学学園祭も2020年度は中止、2021年度はオンライン実施で開催されました。そのような中でも、情報メディア創成学類生は、得意な情報通信技術を大いに活用して、従来に劣らない学業成果を上げています。また、大学や学類の運営のために教員が行う諸会議もほとんどオンラインで行われてきましたが、物理的な移動が不要になった分、効率化が進んだかもしれません。

2011年3月に第一期生が卒業して以降、本学類の卒業生たちは、独自の個性を各々に発揮して、研究、開発、創作、事業、社会活動などの多様な分野で活躍しており、時代や社会のニーズに答える人材を養成するという大きな役割を果たしてきたといえます。現代は、Society 4.0と言われる情報社会から、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会（Society 5.0）を目指す時代とされています。とはいえ、コロナ禍の中、接触確認アプリ（COCOA）の不具合が長期間解消されなかったなど、技術的に未成熟な面も明らかになってしまいました。したがって、IoT（Internet of Things）、AI（Artificial Intelligence）、サイバーセキュリティ、ビッグデータの解析などに対する高度な技術や知識を身に着けた次世代のICT（Information and Communication Technology）人材がますます求められています。そのため、情報メディア創成学類では、これまで、

ネットワーク情報社会に不可欠な基盤的技術分野やWeb・映像・音楽などの多種多様な情報をコンテンツとして扱い流通させる分野において、革新的技術や科学的理論を創造的に生み出すことができる人材養成のための教育を行ってきました。

また、本学類は創設以来の歴史が若いことから柔軟性を持っています。特に、1学年の定員50名（3、4年次は編入生＋10名）と比較的小さな学類ながら、31名の専任教員（2022年4月現在）が在籍し、1学年あたり学生1.6人に対して教員1人ときめ細やかな対応が可能な比率になっています。さらに、第一線で活躍するクリエイターやプロデューサーをお招きしての講義、実践力を養成するために産学共同で実施する「組み込み技術キャンパスOJT」など、特色ある授業科目も併せて開設することで、幅広く、みなさんの希望に応じて様々な内容が学べるカリキュラムにもなっています。

情報メディア創成学類の英語名は、College of Media Arts, Science and Technology（略称MAST）です。Artという言葉が入っているので、一見、芸術系にも見えるかもしれませんが、ScienceとTechnologyをも基盤とする理工系の学類です。高等学校の教育課程においては、何をおいても数学の学習が基本になります。また、「デジタルネイティブ」とよばれる世代のみなさんにとって、インターネットやネットワークサービスそのものは生まれたときから当たり前身近に存在していたことでしょう。実際のプログラミング経験は人それぞれかもしれませんが、入学後に学べる機会はいくらでもあるので、心配は不要です。そのうえで、情報メディア創成学類での様々な学習、交流による新たな体験を積み上げて、これからの新しい社会であるSociety 5.0の実現に貢献していく次世代のICT技術者／研究者を目指してみませんか。そういった好奇心とチャレンジ精神にあふれたみなさんを本学類は心より歓迎します。

森継 修一

知識情報・図書館学類長より

筑波大学情報学群知識情報・図書館学類の歴史は、1921年に創設された文部省図書館員教習所まで遡ることができます。文部省や帝国図書館など日本の図書館政策に関わる中枢機関との密接な関係のもとに実施された図書館職員養成は、100年にわたり図書館界に重要な人材を輩出する基盤となってきました。文部省図書館員教習所から、帝国図書館附属図書館職員養成所、図書館短期大学、図書館情報大学、筑波大学図書館情報専門学群から、今日の本学類にいたる歴史は、日本の図書館情報専門職養成の歴史そのものといっても過言ではないでしょう。卒業生アンケートでは、100周年にあたってのメッセージや、在校生へのメッセージをいただきました。今後、ウェブサイトで公開していく予定です。

このように、図書館情報専門職養成にその起源をもつ本学類ですが、現在は、知識・情報の蓄積・流通の成り立ちやそのシステムについて、人間や文化、社会、情報技術などの側面から探求するという広範囲の知識情報学および図書館情報学という学問領域を担っています。インターネットから図書館にいたる知識共有の仕組みのデザインやマネジメント、これらを支える情報システムについて学ぶことができるだけでなく、共有された知識を企業活動や先端的研究活動、市民活動など、人間の知的営みに活用する力を身につけることができます。

知識情報・図書館学類の特長は、分離融合型のカリキュラムによって、知識と情報について多面的に学ぶことができるところにあります。知識情報社会において、知識と情報に関する専門的なスキルは、大きなアドバンテージとなります。IoTやAIによるパラダイムシフト、地球規模での高齢化や認知症の増加、毎年のように襲う記録的豪雨や大型台風、地震、そして新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミック…このように大きく揺れ動く社会の中で、知識や情報をもたらす影響ははかりしれません。

知識情報・図書館学類では、このような社会の中で活躍することのできる知識情報のエキスパートを育成することを目的としています。

筑波大学では、2021年度入試から総合選抜方式を導入しています。総合選抜方式とは、入学後に学問分野を俯瞰しながら専門を定め、自らのキャリアを主体的に切り拓くことを望む人のための筑波大学独自の選抜方法です。総合選抜で入学した学生は、1年次に総合学域群に所属し、それぞれの興味に応じて幅広く学びます。1年間の学びの後、本人の志望と、入学後の成績や適性に基づいて、2年次から学類へ移行します。

一方で、知識情報・図書館学類への志望を固めている人は、推薦入試やAC入試への出願をお奨めします。推薦入試では、小論文、面接を課し、提出書類等を含めて総合的に判定して合格者を決定します。この面接では、全国でもユニークなビブリオバトル方式を採用しています。ビブリオバトルとは、「誰でも開催できる本の紹介コミュニケーションゲーム」です。学校や大学、図書館、企業の研修や勉強会で広く活用されています。

知識情報・図書館学類では、多彩な研究領域の教員を擁し、教職員によるきめ細やかな修学指導や、ラーニングコモンズでの学修支援なども充実しています。知識と情報の力で、社会を支え、切り拓く人材を育てる本学類でぜひ、一緒に学びませんか。

入試情報

https://klis.tsukuba.ac.jp/EE_schedule

図書館学校創立100周年（筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類 / 情報学学位プログラム）

<https://klis.tsukuba.ac.jp/klis100th/>



年間の流れ

春 A 4月上旬～5月下旬

入学式

大学生活の始まり。大学会館で2回に分けて行われます。歌手のクリスハートさんの手がけた学生歌、「IMAGINE THE FUTURE.」は必聴。YouTubeでも聴くことができます。

<https://www.youtube.com/watch?v=LI89Pi63S7I>

入学式後に行われるオリエンテーションでは（昨今の情勢によって形態が変更となる可能性があります）学類の人と初めて集まるほか、履修に関する重要な書類の受け渡しや説明などがあります。

新歓本祭

入学式が終わるとすぐに各サークルからの勧誘が始まります。気になるサークルのことを一度に知るチャンス！（執筆時点では対面開催の予定です）

春 B 5月下旬～7月上旬

スポーツ・デー

年に2回（春学期、秋学期にそれぞれ1回ずつ）行われます。毎年様々な種目の大会が行われ、盛り上がっています。去年には e-sports 枠として、スマブラも競技になりました。

やどかり祭

1年生が主体となって運営するイベント。目玉はゆかたとパフォーマンスのミスコン「ゆかコン」。

春 C 7月上旬～8月上旬

夏休み

8月上旬～9月いっぱい

春Cが終わる8月上旬から9月末まで、2ヶ月近くあります。やりたいことがあれば思う存分取り組みましょう！

秋 A 10月上旬～11月上旬

スポーツ・デー

年に2回（春学期、秋学期にそれぞれ1回ずつ）行われます。毎年様々な種目の大会が行われ、盛り上がっています。去年には e-sports 枠として、スマブラも競技になりました。

秋 B 11月上旬～12月下旬

雙峰祭

11月に3日間にわたって行われる筑波大学の学園祭。様々な学類やサークルによる模擬店やステージ企画などによって学内がとて盛り上がるビッグイベントです。

冬休み 年末年始 1週間程度

12月の終わりから1月頭までの短い休暇。1週間ほど。実家に帰省したりバイトで稼いだりと人によって過ごし方は様々です。

秋 C 1月上旬～2月上旬

卒業式

3月下旬に行われる大学生活最後の晴れ舞台。袴を着る学生も多数見られ、会場が賑わいます。

春休み 2月上旬

冬休みが短い代わりに、春休みは2ヶ月弱と長めです。

ABC モジュールって？

大学は、単位を修得することで進級・卒業ができます。筑波大学の場合、授業は1コマ75分で、夏休みを挟み、前半が春学期、後半が秋学期となっています。さらにこれらの学期はそれぞれABCの3つのモジュールに分かれています。1つのモジュールは5週間です。授業にはABもしくはBCモジュールを通して10回行われるものと、ABCモジュールを通して15回行われるものがあります。基本的には週1コマ×10回で1.0単位、週1コマ×15回で1.5単位を修得できます。klisやmastの授業の多くはABモジュールで終了しますが、Cモジュールまで行われる授業もあります（他学類に多いです）。Cモジュールの期間は授業以外のことに活用できる時間が増えます。

学生有志の開発したサービス

筑波大学では、有志の学生が自らの大学生活を便利にするためのサービスを自作し、学生の間で共有するという営みがたくさん行われてきています。

例を挙げると、大学の時間割を分かりやすく管理するアプリ「Twin:te」や授業・シラバスを参照する大学公式のサービスであるKdBのサーバーが落ちてしまった時の代替として作られ、本家にはない機能の追加なので高い人気を誇る「KdB もどき」等があります。

よく使うサービス

ここでは授業などでよく使われるシステムやアプリを紹介します！ここで挙げた事例などについては筆者（2021年度入学）の体験に基づくものなので、今年度は少し違う部分もあると思います。しっかり大学からのお知らせなどを確認してください。

TWINS

TWINS は筑波大学で学修していくうえで非常に大切なシステムで、履修登録などを行う際に必要です。実際に授業を受ける際に使用するのは後述するmanabaですが、そもそもTWINSで履修登録をしていなければ、授業に参加することができません。また、授業のなかには事前登録が必要となるものがありますが、その手続きもこちらで行います。

成績を確認するのににもTWINSを使います。各学期の終了後に成績表は紙で送られますが、送り先が実家であったり、少し時間がかかったりするためTWINSから確認するほうが手軽です。

それから大切なのが掲示です。授業または学類からのお知らせ、奨学金に関する連絡、さまざまなイベントの参加者募集などの掲示板があります。とても大切なお知らせや有益な情報が掲示されることがあるので定期的にチェックするようにしましょう

manaba

manaba は筑波大学が導入している学習管理システムで、オンライン授業における資料配布や授業動画などの共有の場所として使用されています。「スレッド」や「個人指導」の機能を用いることで先生方に質問することもできます。

前述の通り基本的にそれぞれの授業についての連絡はmanabaを通じて行われるため、チェックしていないと休講や締め切り変更等を把握できず大変なことになるかもしれません。

また、先輩方が作ったmanabaのchrome拡張機能も存在します。例を挙げると、「未提出課題」の欄の締め切りが近い課題に赤、黄、緑といった色をつけ、視覚的に分かりやすくしてくれるものなどで

す。使い方に慣れてきたら是非チェックしてみてください。

respon

一部の授業で出席を取るのに使用されるサービスです。指定された9桁の数字を入力することで出席確認を行うもので、出席だけを取る場合と、ちょっとしたアンケートも取る場合があります。授業によってはこの機能を使って質問を募集しているものもありました。responはmanabaからもアクセスできますが、個人的にはスマホのアプリ版が便利だと思います。アプリ版では過去の提出ログを見ることができるため、出し忘れを減らすのに少しでも役立つと思います。

responは未提出かどうかを一覧で見ることができません。番号が提示されたら早めに提出することをおすすめします。また授業によっていつどこで提示されるかも異なるため、しっかり確認をするようにしましょう。

Microsoft Stream

StreamはMicrosoftが提供する動画共有サービスです。オンデマンド授業の多くはこのサービスを用いて共有されます。

Microsoft Teams

TeamsとはMicrosoftのツールです。双方向授業や教員に質問するスペースとして利用されます。先生方のなかにはオフィスアワーを設けて、その時間にTeamsで質問を受け付ける方もいます。

またTeamsは授業以外の課外活動でも使用されることがあります。たとえば全代会の連絡や会議等はこちらを使っています。サークルでもTeamsを用いているところがあります。

共通科目

英語

English Presentation Skills

全学類必修科目です。様々な英語の文章を読んだり、ときには書いたりもします。その授業内容は先生に一任されていて、どの先生が割り当てられるか、どのような授業を受けることになるかは完全な運任せです。クラス分けテストは素直に全力で受けてください。

English Reading Skills

全学類必修科目です。英語を通してプレゼンテーション学び、プレゼンテーションを通して英語を学ぶ授業です。English Reading Skills同様、授業内容は先生に一任されていて、どの先生が割り当てられるか、どのような授業を受けることになるかは完全な運任せです。

基礎体育

全学類必修科目です。履修科目は自分の好きな種目を希望し、抽選で決まります。バドミントンやバレーボールなどの定番種目から、ニュースポーツやジョグ&ウォークといった変わった科目もあります。是非先輩方に話を聞いて参考にしましょう。科目（種目）選択には、体育センターHP上にある「科目選択システム」を用います。申請期間中にオンライン上で科目の希望が取られます。この申請を忘れると手続きが必要になりますので、体育センターからのお知らせを確認するようにしましょう。

データサイエンス

全学類必修科目です。データサイエンスの基礎的概念を理解し、基礎的なデータの分析の仕方やその重要性を学びます。MicrosoftのExcelを用います。

学問への誘い

全学類必修科目です。ちなみにこれは「がくもんへのいざない」と読みます。ここでは他学類でどんなことを学んでいるのか、自分の学類でどんなことを学ぶのかを知り、自分の専門分野と他分野がどのように関連しているかを学ぶことができます。筑波大学では学際性を重視しているため、これからの学びに役立っていくと思います。

情報リテラシー

情報リテラシー（講義）

全学類必修科目です。情報の基本概念と社会におけるコンピュータやインターネットの位置づけを理解した上で、コンピュータの原理と構成、ソフトウェアの原理、インター年との仕組み、情報倫理や情報セキュリティ、知的財産権に関する知識を学びます。

情報リテラシー（演習）

全学類必修科目です。コンピュータを利用した基礎的な情報利用技術を身につける授業です。MicrosoftのWordやPowerPointの使い方を実践的に学びます。

総合科目（学士基盤科目）

総合科目または学士基盤科目と呼ばれる科目を1単位以上取る必要があります。1年のうちに取っておくのが主流です。どの科目も抽選が行われますが、なかなか厳しいため取り逃してしまうことも。早めの履修準備を心がけましょう。2つ以上履修しても問題ありません。自分の興味に従って履修してみましよう。

第二外国語（初修外国語）は？

第二外国語は必修ではありませんが、履修することは可能です。余力がある人や学んでみたい外国語がある人は履修してみてください。

創成の科目

必修科目

ここではその全てを紹介するわけではありませんが、いくつかを取り上げて説明します！

また、体験談として紹介する授業の様子は担当される先生によって異なるため、実際の今年度の授業とは異なる可能性があります。

ファーストイヤーセミナー

週一で mast が全員で集まれる機会。基本的にオンライン授業だった昨年度は大変重宝されました。P/F での評価なので、それなりにしっかり受けてれば落とすことはないです。担当教授や同学類の人との交流の場として生かせるとベスト…かも？

情報数学 A

一年次の最初からとる授業。高校数学(主に集合、写像など)の基礎、応用を学んでいきます。高校数学がある程度できているのであれば、すんなりと理解できると思います。パズル的な要素もあったので筆者はかなり頭を使いました…

線形代数 A

行列の基本について学びます。行列の計算は慣れるまでがとても大変なのですが、演習量が多いので、しっかり定着させることができます。頑張りました。

微分積分 A

高校の数Ⅲ分野の発展を学びます。数Ⅲで習った極限や微積などの基本概念を学ぶので、ただ微積の計算ができればよいわけではないので難しいです。ですが基礎もしっかり教えてくださるので、学んでないからできない！ということはありません。のちの授業にも必要な知識ですので頑張って学びましょう。

プログラミング入門 A・B

Python を扱う授業です。解説がちゃんとあるので、コードを書くのが初めてでも楽しくプログラミングが学べます。わからないことは得意な友人に聞くのも、教授、TA に聞くのもよいでしょう。

私たちが取ったときは毎回、課題の最後にチャレンジ課題が出て、自分たちで一からコードを書きました。

選択科目

コンテンツ入門

毎回授業をしてくださる教授が変わるオムニバス形式の授業。特徴的なのはなんといっても後半の 5 回にわたってに行われる講師をお招きしての授業。いろんな分野の最前線で活躍している方のお話が聞けるので大変人気の高い授業です。

Twitter でツイートをすることで出席確認するという、特殊な形式をとっています。

知識の科目

必修科目

ファーストイヤーセミナー

本授業はは全ての学生にとって必修ですが、その授業の内容は各学類等によって異なります。klis のフレセミは特徴的だと言われています。昨年度は、メールやレポートの書き方、付属図書館の使い方、卒業研究着手発表会への参加、PROG テスト、インターンシップ等の概要説明など、その内容は多岐にわたりました。昨年度はオンライン授業がほとんどのなか、週に 1 度の貴重な対面活動の機会でもありました。

成績評価は P/F です。出席や課題を忘れず、きっちり単位を取っていきましょう。

情報数学 A

情報学の基礎となる数学的概念について学ぶ授業です。特に集合、論理、写像、グラフといった概念の基礎を上げて講義が行われます。昨年度は先生がとても分かりやすく教えてくださったため、数学が苦手な人でも理解しやすかったという声が多くありました。必修科目でこれから先の学修で必要になってくる知識ですので、しっかり勉強しましょう。

知識情報概論

情報とはなにか、情報を記録すること、共有することとはどんなことかなどを学びます。知識情報・図書館学類でどんなことをしていくのかを理解しながら、知識共有に関連するさまざまな概念を知ることができる科目です。昨年度はオンデマンド形式でしたが、ライブ感のあるとても楽しく面白い授業でした。例年他学類の学生からも非常に人気の授業です。klis 生は必修でこの科目を取れるので、ぜひ楽しんでください。

アカデミックスキルズ (アカスキ)

アカスキは知識情報・図書館学類独自の科目です。ここでは情報検索やレポートの書き方、プレゼンテーションの方法など、大学生に必要なスキルを身につけることができます。フレセミでもレポートの書き方などを少しやりますが、アカスキではより詳しく丁寧に学びます。ここまでやってくださる授業は他にはないと思います。実際にレポートを作成したりプレゼンテーションを行うなど課題は少し重いですが、他の授業や将来に役立つスキルを身につけられる非常に有意義な授業です。集中して授業に参加しましょう。

プログラミング入門 A・B (プロ入)

Python というプログラミング言語を使用して、プログラミングについて一から学びます。プログラミング経験が無くても大丈夫です。説明や資料は初心者でも理解できる内容になっていたと思います。昨年度は Microsoft Teams を用いて、授業時間内に質問を行うことができ、非常に分かりやすく教えていただきました。秋 AB に開講されるプログラミング入門 A は基本的なことを学びますが、秋 C に開講されるプログラミング入門 B は A で学んだことを組み合わせ、若干応用的な内容になってきます。そのため難しいと感じる人が多くいたように思います。分からない部分は授業時間に積極的に質問しましょう。

知識の科目

選択科目

知識情報システム概説

ネットワーク社会における知識の構造化、提供、共有のための枠組みについての講義です。WWWの構造や歴史、ハイパーテキストをはじめとした知識の構造化、ネットワークに関する基礎知識を学びます。正直 klis 生のなかには、情報学群に入ったけどこのような基礎知識をほとんど持っていないと少し不安を抱いている人もいないでしょうか(実際筆者はそうでした……)。そんな klis 生はぜひこの科目を取ってみましょう。またネットワークに詳しい人も、この分野の最前線で研究を行っている先生の話の聞いたり、最新の情報も知ることができるため、有意義なものになると思います。

図書館概論

1年次対象の唯一の図書館に関する授業で、司書資格取得のための必修科目です。図書館の歴史や現状、機能、社会的意義などを学び、今後の図書館の在り方を展望するための考え方を身につけます。授業内で国内外のさまざまな図書館が例として挙げられ、図書館に関する認識が変わります。図書館が好きな人も、それほど興味がない人でも楽しめる授業だと思います。

線形代数 A

高校では扱っていない行列の基礎を学び、演習等を行う授業です。昨年度は主にガウスの消去法について学習しました。繰り返し説明して下さり、内容を理解することができました。数学が苦手な筆者でも、演習を繰り返すことで単位を取ることができました。線形代数の知識は2年次以降の授業で役立ちます。

微分積分 A

微分積分についての科目です。新しい概念や定理なども出てきますが、数Ⅲの内容と被っているものが多いです。だからといって数Ⅲをやっている前提で授業が進むわけではありません。昨年度は数Ⅲをやったことが無い人でも理解ができるよう、かなり基礎的な部分から丁寧に説明をしていただきました。

微分積分は2年次以降に学習する統計や解析学などに必要な知識です。大変かもしれませんが、今後のためにも履修することをおすすめします。

その他よく取る科目

知能と情報科学

計算と情報科学

システムと情報科学

情報科学概論

情報メディア入門

コンテンツ入門

大学説明会（知識のみ）

大学説明会に向けてのご案内

知識情報・図書館学類大学説明会運営委員長

岡澤卓弥

こんにちは。筑波大学情報学群知識情報・図書館学類所属、知識情報・図書館学類大学説明会実行委員長の岡澤卓弥です。知識情報・図書館学類では毎年8月末に学類の大学説明会を行っております。

こちらは例年学生主体で行っており、様々な催しを開いています。具体的には、大学生が受験期の勉強法や大学生活について語る student talk や、大学生や大学教授に直接質問できる学生相談などを設けています。例年筑波大学の春日エリアを用いて対面で開催しておりましたが、一昨年と去年は新型コロナウイルスの影響によりオンラインでの開催になりました。しかしその分、Youtube にインタビュー動画を載せたり、zoom を活用して質問会をしたりなど、オンラインでも親身に対応できるようにして、成功することができました。

志望校で悩んでいる方、文理を問わず学びたい方、司書になりたい方、大学受験で悩んでいる方は是非ご参加ください。

最後になりましたが、現在新型コロナウイルスによってまだまだ先の見通せない状態が続いており、高校生の皆さんの中にも思い通りの生活が送れていない方がいるかもしれません。ですが、そういった時こそ是非色々な人の話を聞いてみてください。私たちはみなさんに良い情報や刺激を与えられるよう準備してお待ちしております。

知識の主専攻について

klisには3つの主専攻があり、3年次から分かれてその主専攻分野について専門的に学ぶことになります(mastは主専攻に分かれることはありません)。主専攻には「知識科学主専攻」「知識情報システム主専攻」「情報資源経営主専攻」があります。ここではそれぞれの主専攻について紹介していきます。紹介されている科目は2021年度に開講されているものですのでご了承ください。

知識科学主専攻

「人間」に注目する主専攻です。知識や知識共有の本質を探り、それらを活用する能力を修得します。この主専攻では、知識の本質や人間の情報行動、人間がどのように知識を獲得するのか、といった人文社会学的なものから、データを分析して知識を抽出する手法や知識の探索技術などといった理工学的なものまで、とても幅広い分野を研究対象としています。このような幅広い研究対象から、自分が研究したいと思ったことに、突き詰めて取り組むことができる主専攻と言えるでしょう。

専門科目紹介

○知識科学実習 A・B

この授業は知識科学主専攻の先生方がオムニバス形式で講義を行うものです。主にグループワークで実習が進められ、卒業研究だけでなく、卒業後社会人になっても役に立つ力を身につけることができます。

○知識論

哲学の観点から「知識」を取り扱う授業です。哲学において「知識」がどのように捉えられてきたか、現代哲学において「知識」に関するどんな問題があるのかを学ぶことができます。

○データマイニング

大量のデータから規則性を探し出すための手法である「データマイニング」について、典型的な考え

方やその方法について学ぶ授業です。データマイニングに必要な基礎知識から応用まで学ぶことができます。

○テクニカルコミュニケーション

テクニカルコミュニケーションとは、専門情報を正確に分かりやすく伝えることを意図した筆記・口述の方法です。テクニカルコミュニケーションを意識した文書の企画・構成・表現設計に必要とされる知識や技術を、実践的に学びます。また専門職としてのテクニカルコミュニケーターの業務や活動を、演習を通して学びます。

知識情報システム主専攻

「情報技術」に注目する主専攻です。インターネットなどの情報技術の進歩によって、私たちは膨大な知識と情報を共有しています。それらを有効に効率よく扱うための技術が必要です。この主専攻では、知識や情報を有効に共有・活用するための高度な技術を修得します。特に大きな強みとしてプログラミングの演習が充実していることが挙げられます。しかしそれだけでなく、知識情報の共有や、データベース、情報検索、デジタルライブラリといったさまざまな知識情報システムについて学び、研究することができます。

専門科目紹介

○知識情報システム実習 A・B

実践形式の講義で、グループワークで実際にシステムを開発・構築します。システムをグループで協力しながら開発し、システムを実現するための実践的な知識・技術を身につけることができます。

○Webプログラミング

Webの基本原則からサーバ側プログラミングの基本原則と実際、セキュリティ問題について学びます。実習や課題で実際にプログラムを作成することもあります。

○データベース技術

データベースシステムを実際に構築する際の諸技術と必要な知識について、演習を交えながら学びます。また実際にシステムを構築していく過程で遭遇し得るさまざまな問題に関して、必要な解決能力を身につけます。

○メディアアート

近年メディア装置の発明を伴う芸術活動が盛んに行われています。この講義ではメディアアートに関する歴史やその技術について学びます。また実際にメディアアートの制作にも取り組みます。

情報資源経営主専攻

「社会」に注目する主専攻です。知識情報を提供する環境や社会の整備、経営や制度についての知識や手法などを修得します。何年か前までは「情報経営・図書館主専攻」という名称だったことから分かるように、3つの主専攻の中で最も図書館に関係がある主専攻といえます。しかしそれだけではありません。現在この世界には、多様な情報が大量に存在しています。それらの情報を蓄積・整理し提供する環境があるからこそ、私たちは適切な情報を有効に利用することができます。この主専攻ではそのような情報環境の整備、それに関わる社会的制度の設定などについて学び、研究することができます。

専門科目紹介

○情報資源経営実習 A・B

情報資源経営主専攻分野における研究テーマを選択し、それについて学術文献リーディングやプレゼンテーション、グループごとの共同研究を行います。図書館情報学分野について興味・関心を高め、基礎知識や研究の基礎的なスキルを身につけます。

○図書館論

図書館について、読書・読者との関係、国際比較、近現代などさまざまな角度から学び考える講義です。それらを通して、図書館を理解するために役立つ基本的な概念や研究について知ることができま

す。

○情報法

ネットワーク社会で新たに発生するようになった法的問題に接しながら、法律学の体形に関する概念や法理に基づいて、現実に発生している諸問題の現状とその法的対応について学びます。インターネット上の権利侵害やAIの法的な問題などについての講義を受けることができます。

○情報サービス構成論

レファレンスサービスは、図書館や情報サービス機関において提供されるものです。この講義ではレファレンスサービスを対象としてその目的、構成、方法、多様な情報源の利用法、参考調査図書館の組織と運営などについて学びます。そして図書館情報学と経営学の視点から情報サービスの構成方法を考察できる視野を養います。

様々な入試形態

筑波大学には様々な入試形態があります。そのなかで mast と klis で実施している入試形態について少し紹介します。詳しくは募集要項をご覧ください。

総合選抜 [前期日程]

総合選抜は「文系」「理系Ⅰ」「理系Ⅱ」「理系Ⅲ」という区分で学生を受け入れる入試形態です。共通テストと個別学力検査が課されます。合格・入学後、1年次は総合学域群に所属し、2年次からそれぞれの学類・専門学群に進学するようになります。2年次から mast では 18 人、klis では 45 人を受け入れます。

学類・専門学群選抜 [前期日程]

合格・入学後、1年次から学類・専門学群に所属します。共通テストと個別学力検査が課されます。mast の定員は 20 人です。klis では実施しません。

学類・専門学群選抜 [後期日程]

個別学力検査は課されず、共通テストと面接や小論文などの実技検査を用います。mast では実施しません。klis の定員は 10 人です。

推薦入試

所属高校等からの推薦に基づき、共通テストを課さず、11月に試験を実施、年内には合格が決まる入試形態です。(他学類には共通テストを課し、実施時期も異なることもあります。)実技検査では面接や小論文が課されます。klis の面接ではビブリオバトル(ゲームスタイルのグループディスカッションで気に入った本の紹介を行う形式)を用います。mast は 8 人、klis は 40 人の定員です。

アドミッションセンター入試

AC入試とも言い、共通テストを課さず、10月に試験を実施、年内には合格が決まる入試形態です。第1次選考の書類選考と、第1次選考合格者に対する第2次選考の面接・口述試験で判定が行われます。

mast の定員は 4 人、klis は 5 人です。

国際科学オリンピック特別入試

日本情報オリンピック(JOI)本選でAランクとなることで応募要件を満たす入試です。共通テスト等は課されず、エントリーシートと15分間の面接で判定されます。mast では定員を若干名としています。klis では実施しません。

国際バカロレア特別入試

IBディプロマ取得者を対象とする入学試験で、書類審査と面接、口述試験が課されます。mast,klis ともに定員を若干名としています。

私費外国人留学生入試

日本国籍を有しない者を対象とした入学試験で、小論文と面接が課され、日本留学試験の成績と合わせて総合的に判断を行います。mast, klis とも定員は若干名としています。

合格体験記

学類・専門学群選抜 [前期日程] 情報メディア創成学類

志望理由

高校生時代からプログラミングをやっていたこともあり情報系の学部に進学したいと考えて大学を探していました。その中で情報メディア創成学類の、他の多くの情報系の学部とは違いメディアやコンテンツにも重きを置いた情報学を学べるところに魅力を感じ志望しました。

共通テスト

共通テストの対策は11月から始めました。私たちの代は共通テストが始まった年ということもあり、共通テストの過去問は存在していませんでした。そこで物理、化学、地理はセンター試験の過去問を5年分くらい解きその後はひたすら共通テストの予想問題を15回分くらい解きました。と、ここまでつらつらと対策を述べてみましたがこれが本当に効果があったのかはわかりません。というのも私は共通テストの数学ⅠAで数学Ⅰを間違えて45分間解いてしまうという大失態を犯したのです…

そのため自己採点では合計で700点を切り、共通テストリサーチではD判定を叩き出しました。模試などの際によく言われる注意事項(「マークズレに気をつける」や「数学ⅠAと数学Ⅰを間違えるな」とか)は実際にしかも本番で起こります。この体験記を読んでいる人もまさか自分には起こらないだろうと思っていると思いますが、本当に起こります。気をつけましょう!

二次試験について

数学については塾の教材と高校の教材、青チャートの周回を高校三年生の1年間はひたすらやりました。過去問は、夏は数学力を鍛えるために筑波より少し難しい大学の過去問いくつか3年分ほど解き、夏の終わりから英数ともに筑波の過去問に取り掛かり、最新3年分を残して10年分の過去問を11

月までに解きました。最新3年分は共通テスト後、二次試験までの1ヶ月間に解きました。

英語は本当に参考にしてほしくないのですが、苦手意識が強かったため共通テストが終わるまで勉強していませんでした。共通テストが終わってからは基礎レベルの文法の確認とターゲットの単語を第一章から丸暗記して行きました。あとは筑波大学の英語には自由英作文が出題されるため、英作文は添削をしてもらっていました。ただ近年の英作文の出題形式が始まったのは比較的最近であるため、筑波大学の過去問だけでは英作文のサンプルが足りず、広島大学や北海道大学などの英作文で練習していました。

共通テストや私立の試験などで、もしかしたら試験本番で皆さん必ずどこかで大なり小なりうまくいかないことがあると思います。そういう時には焦りや不安の気持ちをうまく正の方向に転換して勉強へのエネルギーにしてみてください。そして本番は絶対に自分は受かるという気持ちで挑めば大抵受かります。皆さんに来年お会いできることを楽しみにしています。

頑張ってください!

合格体験記

推薦入試

情報メディア創成学類

受けた理由

自分は大学選びにとっても悩んでいて具体的にやりたいことがないままだったのですが、この mast を見つけたときに体に電流が走ったような間隔を覚えたので、ここを第一志望にしようと思いました。直感というのは何とも不思議な力なのですが、あの時の選択は間違っていなかったなと今でも思います。

すると次に受験形態を選ぶ必要があります。私は内申点が良く、推薦の出願要件を満たしていたこと、さらに、ほんの少し電子工作に触れたり、プロジェクトマップのお手伝いをしたりと、謎の経験があったことなどがあったため、これは武器になるかもしれないと思い推薦入試も受けてみようと思われと相談したわけなのです。

この推薦入試は、ここが第一志望である場合には単純に試験を受ける機会が一回分増えるということになるので、ダメもとでも受けてみる価値はあると思います。あと、高校の最後の数か月を自分の好きなことに費やせるという夢も叶えられます。(これが非常にでかいのです。)

受験対策について

私は小論文については過去問を解きまくっていました。試験は面接と小論文の2つです。過去の小論文の問題は、英語で数学的なパズル問題が出るパートと日本語で論理的な記述を求められるパートに分かれていました。数学のパートに関しては問題のレベル的には難しすぎないのですが、なんといっても英語なのが私には鬼門でした。恥ずかしい話、私は英語があまりにも苦手だったので大変苦労しました。ですが、難しい単語や専門用語にはちゃんと日本語訳が書いてあったりするので大筋がつかめれば、何とかできます。後半は論述メインです。年によって変わりますが、せいぜい数百字程度を解答するものでした。

対策としては、問題を解いて担任に添削してもらい、特に論述部分は議論してもらってより良い解答に仕上げていくというやり方をしていました。

面接は三人の面接官と行います。時間はおよそ15分で数学の口頭試問(二問のうち一問を選択)を含みます。口頭試問は担任に、それ以外の面接はいろんな先生に対応してもらって対策していました。

いざ試験

それなりに緊張しながら面接会場に赴き、着席。小論文の試験が始まり冊子を開けてみると、なんと論理的な論述のパート(過去問の後半パート)がなく、その代わりすべて英語の数学的パズルの問題でした。英語が苦手なので、やばいかなと思いました。内容(タイトル)を見てみると知っている知識で解けるものが多かったのです。一つはクラスになぜかおいてあったパズル、さらにもう一つはたまたまYouTubeで見た思考パズルでした。あとは初見でしたが何とか出来ました。

面接会場は新型コロナウイルス感染症の影響でアクリル板によって仕切られていました。最初に口頭試問が行われたのですが、私はここで焦ってミスを量産しました…。落ち着けば解ける問題だったので、緊張とは恐ろしいものです。時間もかなり使ってしまったのであとは自己PRでした。これはかなりまずいと思い、何とか挽回しようと超自己アピールしていました。何言ったかは覚えていません。

終わりに

私的に推薦は、ここが第一志望なら間違いなく受けてみるべきと思っています。もちろん対策に受験勉強の時間は取られてしまうのですが、熱意とある程度の実力があれば、希望はあります。意外と何とかできるので、チャンスは逃さずに喰らいついていきましょう!

アドミッションセンター入試

情報メディア創成学類

アドミッションセンター(AC)入試について

そもそもAC入試とは何かという話ですが、私個人の偏見を多分に含んだ言い方で表現すると、良い意味で変態的なオタクのための入試であると言えます。AC入試では学力審査はなく、自己推薦書、志望理由書と面接で評価されます。募集要項にも記載されている通り、何に問題意識を抱いていて、どんな過程を経て解決していったかという問題解決能力が一番に評価されます。

一次試験(書類選考)

一次試験では自己推薦書と志望理由書、調査書を提出しました。調査書は重要視されていないのに加えて、自身の成績がよろしくなかったため、とにかく自己推薦書と志望理由書に自身のすべてを詰め込みました。自己推薦書は様式・枚数自由でどのように書いてもよかったので、とにかく楽しくて、楽しくて仕方がなかったです。自身が伝えたいことが次から次へとあふれ出てきてしまい初稿は1万字以上ありましたが、分量が多くても読みにくいだけなので最終稿では8000字ほどに文字数を削りました。内容としては自身の研究への愛の告白と、思い描いている未来を述べたのち、幼少期から現在に至るまでのことについて書きました。志望理由書は800文字数の制限があり、私自身の理想の将来像となぜ筑波大学に進学したいのかという二点を要約して記述しました。実はこの志望理由書は出願書類の発送日前日に気に入らない点があったので、すべて白紙の状態から作り直し、発送日当日に完成してすぐ封筒にすべての書類を詰め込んで郵便局に駆け込んでいったということがあったりします。

二次試験(面接)

二次試験はどんな教授と話せるのかとワクワクで眠れませんでした。当日までは想定問答を考えるの

が面倒だったので、基本的には自身が作成した自己推薦書と志望理由書を読んでいました。また、先人から何かしら助言をいただけないかと思い、AC入試で入学した人に連絡して相談に乗ってもらったりしていました。当日はつくばのホテルで一泊したのち、初めての遠足に心躍らせる小学生のような高揚感を抱きつつ、試験会場へと赴きました。面接の待合室は過去に受験した方々のブログなどではクラシック音楽がかかっており、受験生同士の交流もできたということが書かれていたため、非常に期待していました。が、当日は感染防止のために部屋の四隅に机といすが配置されており、窓全開で寒い上に全くほかの受験生と交流することができなかったのは残念であったなと思います。また、面接中ではマスクで面接官の表情が一切わからないというのもこれまでと異なる点として挙げられます。しかし、面接自体は私が期待していた以上に楽しいものでした。特に面接官の教授にFPGAとGPGPUについて楽しそうに語っていただけたのは一番印象に残っています。しかし面接直後は調子に乗りすぎたのではないかと不安になり、大学構内のスタバでしばらくうなだれていたのも今ではよい思い出です。

まとめ

AC入試で一番大切だったのはとにかく楽しむことです。おそらく楽しくなかったらそもそもAC入試は受けてなかったと思います。また、好きなことをとことん突き詰めて愛していると断言できるぐらい好きになっておけば何も怖くなくなります。

合格体験記

国際科学オリンピック特別入試 情報メディア創成学類

概要

例年つくば市で開催される日本情報オリンピック(JOI)で「本選Aランク(上位20名)」の成績を収めるか、あるいは情報処理推進機構(IPA)の実施する「未踏IT人材発掘・育成事業」に採択されることで応募要件を満たす特別入試です。(ただし、令和6年度(令和5年度実施)入試からは、IPAの「未踏IT人材発掘・育成事業」に採択されることでの応募要件は外されます。「未踏IT人材発掘・育成事業」採択者はAC入試での受験のみとなります。)筆記試験や共通テスト等は課されず、エントリーシートと15分間の面接のみで合格が判定されます。(余談ですが、mastではかの有名な落合先生を始め、数多の学生が未踏事業に採択されています。みなさんも是非挑戦してみよう！)

入試形態

エントリーシートでは志望動機や大学で学びたいことを、A4用紙1枚の所定の様式に詰め込みます。予想以上に分量が少ないですが、記述内容に基づいて面接が展開されるため、思いの丈を解りやすくコンパクトに纏める必要があります。そして迎えた試験当日。「AC入試試験場」との看板が掲げられた3B棟に赴き、面接に挑みます。試験官3人体制で行われるため、入室の瞬間こそ緊張が走りますが、いざ始まると非常に和やかな雰囲気です。面接は進行していき、「本日はどこから来たのですか?」といったアイスブレイクの質問に端を発し、本入試を受けようと考えた動機や、大学で学びたい学問領域などに関して問答を行います。AC入試にみられる志望理由や自己推薦書を要約する時間は設けられず、いきなり質問に突入します。時として面接官の先生から、想定外の質問や鋭いメスが入ることもあるかと思いますが、高校時代に取り組んできた内容を率直に答えれば大丈夫です。

国際科学オリンピック特別入試のいいところ

第一のメリットは、その特色ある入試形態にあります。これまでの実績が直接評価されて国立大学の入試に挑めるわけですから、競技プログラミングやソフトウェア開発に取り組んできた人間にとって、これ以上に嬉しいことはありません。加えて、入試時期が早いことも特徴です。筑波大学の総合型選抜は10月中旬に試験が行われ、11月上旬には合否発表を迎えます。つまり、合格から入学までに自由に使える時間が5ヶ月間も与えられるのです!残された高校生としての期間を楽しみつつ、さらには大学に向けた勉強を重ねたり、自分の興味領域を深めたり——この期間はきっと、各々にとって有意義かつ貴重な時間となるはずです。

むすびにかえて

名称だけ聞くと、なんだか凄そう、自分には手が届かなさそう……と難しそう印象を感じがちな国際科学オリンピック特別入試。しかしながら、そうした心配は無用です。むしろ、高校在学中から情報学に興味のある方々なら、十分に挑戦するチャンスと価値のある入試であると考えます。筑波大学の情報メディア創成学類で、熱意や技術に溢れたみなさんをお待ちしています。

学類・専門学群選抜 [後期日程] 知識情報・図書館学類

私は学類・専門学群選抜 [後期日程] で知識情報・図書館学類に入学しました。まずはklisの後期日程を受けた経緯について、ただ自分語りさせてもらいます。

自分は高校2年生の冬までほとんどと言っていいほど勉強しておらず、授業中は9割方睡眠、定期テストは一夜漬けで赤点スレスレ、といった体たらくでした。そんな自分でしたが高2の冬ともなると進路について真剣に考えるようになり、様々な大学を調べていく中で一橋大学に一目惚れし、そこを目指すことにしました。当初はとてそんなレベルを目指せる成績ではありませんでしたが、部活を引退して以降は死に物狂いで勉強し、結果的には不合格となったものの合格最低点-10点ほどまで学力を伸ばすことができました。落ちたら浪人するつもりだったためそのまま浪人し、猛勉強の甲斐あって成績は上昇し続けたものの、結果1点差でまたも不合格となってしまいました。余談ですが、受かる自信しかなかったため余りのショックに発表後数時間動けませんでした。2浪は考えていなかったため滑り止めの大学を探すわけですが、浪人自体無理を言って始めたため私大は考えておらず、国立後期で合格できそうな大学を探しました。自分は元々商学部または経済学部を志望していましたが、昔から情報系にもうっすら関心があり、調べたところ文系でも受けられる情報系学科が筑波大学にあったことから本学類の受験を決めました。自分が知識を受験するには中々複雑な経緯がありましたが、簡単に書くところな感じです。

後期試験の対策

対策といっても知識の後期は共通テスト900点小論文200点という得点配分のため、ほぼ共通テスト勝負と言っても過言ではありません。事実自分も小論文の過去問3年分をざっと眺めるくらいはし

ましたが、前述の通り前期不合格のショックもあって一度も演習はしませんでした。各科目について書くときりがないので自分が特に伝えたいことを述べると、英語を読む速度は多読と音読の繰り返しと、文章の論理関係を意識することで確実に上昇するという、社会科目の成績はほぼ確実に勉強時間に比例するから、直前まで反復すべきということです。とにかく共テで高得点を目指しましょう。

小論文は演習こそしなかったものの意識していた点はいくつかありました。一番意識していたことは、抽象的なこと→その具体例、原因となること→その結果、というようにすっきりした論理関係が伝わる文章を書くことです。よほど内容が薄くない限り、論理的に矛盾の無い文章が書ければ評価は高いでしょう。また「~へのあなたの意見を述べなさい」→「私は~については…と考える」というように設問への回答を端的に述べることも意識すべきです。

一番伝えたいことは、2年に渡り懸命に目指し続けた志望校に落ち不本意に入学したとしても、自分は入学以降生活面でも学習面でも毎日非常に充実しているということです。それだけkils、ひいては筑波大学が魅力的な場所だということです。ただとした文章でしたが、このことさえ皆さんに伝われば幸いです。受験は時に残酷なものです。この文章が少しでもみなさんの受験のモチベーションアップにつながれば幸いです。

合格体験記

推薦入試

知識情報・図書館学類

私がklisの推薦入試を受けようと思いついたのは、高3の夏前のことだった。当時筑波大学を第一志望に大学受験の勉強を進めていたが、一応推薦についても調べてみたところこの入試を見つけた。klisの推薦入試は断トツで変わっているし、枠が大きい。klisでやりたいことのある方はぜひ受験してほしいと思う。何よりも、klisに一年生のときから所属するチャンスは現在限られている。私はklisへの気持ちを捨てられずこの入試を受けることにした。

こうして受験を決め、対策を始めたのは夏休み明けくらいからだった。まずは小論文。小論文の参考書を一冊買ってきて読み、あとは過去問を解いて高校の先生に添削をしていただいた。klisの小論文はあまり小論文感が無い。過去問を集めてこんな感じか〜と感触を探るのが良いと思う。ただ、推薦入試の過去問入手は難しい。もしこの入試を考えている中学生や高校1、2年生がいたら、ぜひその年の赤本を確保しておくことをお勧めする。

ビブリオバトルについては、まず実際に行われているビブリオバトルに一度、コロナでオンラインになったときのことを考えオンラインで開催されているものに一度参加し、あとは自らの発表を磨くことに専念した。場数を踏むことよりも、自分の発表を分かりやすくする方が良いのではないかと判断したからだ。本を選ぶ際には、もう進路が決まった友人に付き合ってもらい意見をもらった（この友人はわざわざ私の使った本を読むことまでしてくれた…）。また、台本が完成してからは担任の先生や他の先生にも発表を聞いてもらった。ビブリオバトルは台本を作らないことが流儀なのだが、本番は頭が真っ白になるので何も考えなくても話せるくらい内容は決めておく方が良いと思う（私はこっそり原稿を作った）。

迎えた当日、私は実家が東京なので前泊せずに会

場へと向かった。2週間前に下見に来ていたので、徒歩で迷わず会場に着いた。春日キャンパスに着くと、看板に注意事項や受験教室の地図が書いてあり、何人出願しているかが分かる。ここで出願数が分かった私は大変リラックスして試験を受けることができた（理由はお察しいただきたい）。試験はまず小論文があり、昼休憩を挟んでビブリオバトルをする。受験番号が早い方が早く試験を終えることができるので、なるべく早い番号を取っておくと良いと思う。ここで注意事項だが、ビブリオバトルを用いた面接といってもあくまで集団面接だ。面接のマナーは一通り確認しておいた方が良い。私はその確認をすっかり忘れていて、直前になって少し焦った。そしてビブリオバトルが終わるとそのまま解散となる。

こうして入試を終えたのは良いものの、私は入試直後にあった高校最後の期末試験中に胃腸炎になり3日ほど休むことになってしまった。今勉強をしている受験生の皆さんにおいては、体調にはくれぐれも気を付けてほしい。

アドミッションセンター入試

知識情報・図書館学類

AC（アドミッションセンター）入試での合格は、高校受験から敗北を続けてきた私にとって、貴重な成功体験であった。そもそも私は机の上の勉強が特別得意ではなかった。それにも関わらず、無策にかつ我武者羅に勉強し、連敗記録の更新を続けていた。ただ、私にも得意なことくらいはある。そこを汲み取ってくれるAO・AC入試という方式についてもっと早く調べ、選択肢に入れるべきであったと思う。いやむしろ、気付いていながら、無意識に選択肢から外していた当時の自分を引っぱたいてやりたいところである。

私は非常に極端な性格を持っている。一度スイッチが入ると、一つのことに全ての注意が向いてしまうのである。さらに最悪なことに、柔軟な思考がなくなり、完全に自分の世界に入ってしまう。これは一見悪いことではないようにも思えるが、間違った方向にのめりこんでしまっただけでは、修正が効かなくなってしまふのである。この厄介な性格のせいで、無駄な勉強に意味があると信じて疑わず、豪快に空回りをしてきた。自分の土俵でないことに気付いていながら…。

その結果返ってくるのは当然、不合格の通知。私は挫折を抱えながら、唯一合格した関西の大学へ入学することになった。そこは生物系の大学であった。正直なところ生物への興味は薄れていたため、並行して様々な学問に積極的に挑戦していた。しかし、課題・レポートの量が非常に多く、自分の時間が圧迫され、気付くとそこには生物のみを勉強する自分がいた。努力しているにも関わらず、時間の流れとともに自然と、理想と異なる自分へと向かっていたのである。そう気付いた時には、再びスイッチが入ってしまったのである。

スイッチが入ったのはいいが、さすがの自分でも学力勝負は無理だろうと思い、まずは受験に関する情報収集を行った。そこで目を付けたのが、以前か

ら気になっていたAO・AC入試である。そしてどの程度の提出資料のクオリティが必要か分析を行った。私の強みは、大学での学びによっても獲得されたデータ処理能力であると感じている。そのため、その強みを活かした研究を実施し、論文を作成することにした。論文形式に拘ったのは、ほとんどの人が採用していない方式により差別化を図るためである。研究内容については割愛するが、200本以上の論文・書籍に目を通したため、数カ月で客観性の高いものに仕上がったと思う。

面接に関しては、そもそも得意ということもあり、3日で対策を終わらせた。面接を組み立てる時に意識したのは「いかに面接官の印象に残すか」である。服装・髪型も、フレッシュな高校生と差別化を図るべくスーツ・ビジネスヘアで固め、面接中には、追加で資料を渡すという大学側から禁止されていることをしてみたりもした。そもそも、面接とは客観的な判断ができないものであると思う。他の受験生も当然対策はしているわけで、たかだか数十分で大きな差が出ることは考えにくく、結局は主観的な判断に頼らざるを得ないだろう。そのためこのような戦略で挑んだのである。

ここまで短期間で合格を勝ち取ることができたのは、データ分析や面接という、自分の土俵で勝負できたことにある。また、前述した極端な考えを持っていたためでもあり、その点においても、この受験方式こそ最も自分に合ったものであると思う。受験生の皆さんには、常に情報収集を行うことを心掛け、AO・AC入試は自分には縁が無いと決めつけないでほしい。それは、特別なスキルの無い私が、自分の土俵に持ち込み、大学生活を送りながら（履修科目数は制限したが）短期間で合格できたためである。多様化する受験方式の中で、盲目的に一般受験を選ぶのは非常にもったいない。むしろそれ以外で合格を勝ち取る方が、稀有な才能があると評価され、希少価値という点においても奨励されるべきものだと思う。自分の土俵でないなら、さっさと逃げてこっちで勝負するのはどうだろうか？

生活体験記

春日宿舎

春日宿舎は mast と klis が位置する春日エリア内にある、5階建ての建物です。ここでは実際に春日宿舎がどんなところなのか、どんな生活をしているのかを紹介したいと思います（ただし筆者が1号棟（女子棟）に住んでいるため、2号棟についてはあまり把握していないということだけご了承ください）。

まず、部屋の広さは約10平方メートルです。アパートなどと比べると狭いですが、収納などをうまくやればそこまで不便ではないと思います。また部屋にはベッド、机、椅子が備え付けられています。そのため引っ越しの際にそれらを持ち入れる手間が無かったのは良かったです。ベッドは若干高さがあるので下に収納ができますが、寝てる時に落ちたらめっちゃくちゃ痛いです。窓は大きいです。140cm130cmくらいあります。カーテンを開けるとしっかり日が入るので気持ちいいです。音に関してはドアのすぐ外が廊下だからか、廊下の音は割と聞こえますが、隣の部屋の音などが聞こえることはほとんどないので、その点は大丈夫だと思います（大声で喋ったり歌ったりしない限り）。

春日宿舎ではキッチン、トイレ、洗面台、大浴場、コインシャワー、洗濯機、乾燥機などが共用です。大浴場は無料で、17時から22時まで使えます。これは他の宿舎には無いらしく、春日宿舎の特権ですね。

また宿舎では100円玉が非常に重要になります。洗濯機、乾燥機、コインシャワーは100円玉が無いと使えません！宿舎に入居予定の方は、今から普段の買い物などで100円玉を生み出す方法を考えておくと良いかもしれません。また春日宿舎には談話室という部屋があって自由に使うことができます。勉強したり話したりするのに使われています。自分たちの部屋は友達を何人か招くには狭いということもあるので、談話室で集まっている人たちもい

ます。

気になるお値段のほうですが、宿舎費は月額19,615円です（2021年7月現在）。光熱費は宿舎費と別ですが、基本料金は大学が負担してくれるため安いです。しかもキッチン、トイレ、洗面台、お風呂は共用なので、ガス・水道代は請求されません！電気代のみです！これは個人的に宿舎の最大の利点と言っても過言ではないと思っています。

ここまで春日宿舎の話をしてきましたが、個人的にはここでの暮らしを気に入っています。筑波大学には他にも宿舎がありますが、実は春日宿舎が一番環境がいいと言われています。また春日エリアにあるので本学は遠いですが、駅が近いです。なので買い物なども楽だと思います。ぜひ春日宿舎での暮らしも検討してみてください！

Global Village

Global Village（通称グロビ）は留学生とのシェアハウス型宿舎です。このような形の宿舎は珍しく、どんな生活をしているのか気になる方も多いのではないのでしょうか。今回は立地、設備、ルームメイトの3つの面から私が実際に生活して感じたことを書きたいと思います。

まず、立地についてです。グロビは本学と春日エリアのちょうど真ん中あたりに位置しています。そのため、対面授業にもサークルにも自転車で10分程度で行くことができます。また、近くにスーパーカスミ筑波大学店があるのも便利なポイントです。カスミは各種カード決済のみで現金が使えませんが、一人暮らしの大学生向けに欲しいものが揃っています。留学生が多いからか、ハラルフードや輸入菓子が豊富なのも見ていて楽しいです。

次に、設備についてお話しします。グロビは築浅で宿舎と比べるとだいぶ綺麗です。外観は住宅街のようで、夜でも街灯が多く明るいです。一人暮らしで虫が心配な方もいると思いますが、グロビでは滅多に出ません。個室にはエアコン、姿見、壁掛け時計などがついていて、必要最低限の家具は揃っています。食器用洗剤やゴミ袋はユニット内で購入する必要がありますが、トイレトペーパーやハンドソープは支給されます。

最後にルームメイトについてです。ルームメイトについては、皆さんの想像と大きく違う点があるかあるかだと思います。先に言っておきますが、人間関係はユニットや同居人ごとに異なります。あくまで私の体験談です（が、他のユニットでも似た状況だと聞きます）。まず、ユニットメンバー間での交流はほとんどありません。コロナの影響もありますが、みんなで時間を合わせて共有スペースで一緒にご飯を食べたり談笑したりすることはまずないです。基本的に皆、個室にこもっています。次に、英語をほとんど使わなくても生活できる、ということです。

グロビでは4人または5人で1ユニットが構成されていますが、たいてい留学生は1人だけです。そして留学生の方が日本語を話せることも少なくないようです。実際、私のユニットでも5人のうち1人が中国人の先輩ですが、基本的に日本語で話しかけてくれます。

そして最後に、共同生活だからこそそのデメリットもあります。共用の流しが洗い物でいっぱいになっていたり、大声の電話が聞こえてきたり、掃除の分担を守らなかつたり…。その辺りを許容できるかどうかで住み心地は変わってきそうです。繰り返しになりますが、人によります。

個人的にはユニット内での交流が少ないことは残念ですが、それ以外は満足しています。同居人次第のところも大きいですが、良い経験になると思いますよ！ぜひグロビへの入居もご検討ください！

生活体験記

アパート

僕は春日二丁目のアパートに住んでいます。

アパートを選ぶ際の主な基準として家賃と立地が挙げられます。私は家賃3万円以下を条件としていました。3万円となるとどこも間取りはほとんど変わらないので、最終的に春日二丁目の2.6万円のアパートに決めました。

春日二丁目を選んだ理由としては筑波大学の春日エリアとつくば駅に近いからです。筑波大学の春日エリアには徒歩5分ほどで行くことができます。近さで言えば宿舎と遜色ないとも言えるでしょう。

つくば駅の駅ビルであるトナリエつくばスクエアには飲食店やファッションブランドが入っており、気軽に買い物に行くことができます。また、今年の5月にトナリエクレオにオープンしたロピアというスーパーで食品の買い物を済ませることもできます。

他に安いスーパーとして学園の森3丁目のトライアルがあります。トライアルには食品だけでなく生活用品や雑貨も売っており、学生御用達のスーパーです。一見距離がありそうに見えますが、自転車を走らせると10分もかからずに到着できるほどの距離です。

また、つくば駅のファミリーマートをはじめとして、つくば北大通り店のセブンイレブンやつくば荻間店のローソンなど、すぐ近くにコンビニがいくつもあるので、これも春日二丁目の利点だと思われま

す。また、アパートの利点に一人の時間が非常に増えることがあります。実家と異なるのはもちろんのこと、宿舎とアパートの大きく異なる点はこれだと思

減ります。コロナ禍以前ではアパートに人を呼んで集まる、ということができたかもしれませんが現状では頻りに集まることもできません。その点アパートに住むことのメリットであり、デメリットでもあると感じています。一人で過ごすことが得意でない方は宿舎に住むことをお勧めします。

僕がアパートに住むうえで心配していたことの一つに隣人トラブルがありました。しかし、実際に住んでみるとそのような心配は一切必要ありませんでした。隣人と関わることはほとんどなく、ゴミ出しや外出時に見かけたときに会釈する程度です。夜中も隣人がうるさくて眠れないどころか、むしろ僕が少しうるさくして文句を言われるかを感じるほどで、快適に過ごすことができます。

夜中は春日二丁目住宅街であるということもあってかなり静かで、心地よい睡眠をとることができます。

僕は今住んでいる春日二丁目のアパートにとっても満足しているので、大学を卒業するまで住む予定です。

自宅通学

私は埼玉から1時間30近くかけて自宅通学しています。宅通をして感じたメリットとデメリットについてお話します。

メリットの1つ目は親元で暮らせるので楽だということです。一人暮らしだと家事を全て自分でやらなければいけませんが、実家暮らしなら親の協力の元で生活できます。したがって勉強や趣味、バイトに高校生の時とあまり変わらない感覚で没頭できるのは大きなメリットでしょう。

2つ目のメリットは、地元の友達とたくさん関わられることです。つくばに住んでしまうとつくばエクスプレスの値段の高さから地元へ帰ることが減るので、地元での人間関係は薄れると思います。

3つ目は余計な誘いを断りやすいということです。宅通なのでつくばを早めに出ないと帰りがとても遅くなってしまいます。サークルや友達、先輩からの誘いを断りたいとき「宅通だから」が断る理由になります。(笑)

4つ目は金銭面です。定期代は高いですが、私の場合は一人暮らしする費用を考えたらず宅通の方が安かったです。

次に宅通をして感じたデメリットについてお話します。

まず1つ目は友人関係を発展させにくいことです。学生のほとんどがつくばに住んでいるので、つくば住みの人どうして集まる機会が多いように感じました。通学時間と値段からつくばでの集まりに参加しづらいため、つくばに住みたいと思うこともありました。しかし宅通の人もサークルなどで自主的に大学に行くチャンスを作ることで友人関係を広げることが可能です。

2つ目は通学時間が長いので疲れるし退屈だということです。私の場合、時間によっては座れることが多いのでそこまで苦勞してません。また通学中に

オンデマンド授業を受けたり本を読んだりして有効に時間を使っています。

大学に入学して周りの環境が大きく変わり、わくわくする一方で疲れてしまうこともあります。そんな時に住環境まで変わると負担も増えるでしょう。自宅から通えるなら、一旦は自宅から通うのもいい選択だと思います。平日はつくばに住んで週末は家に帰る人も何人か見たことがあるので、やり方は人それぞれです。自分が過ごしやすい方法を模索して、充実した大学生活を送れることを祈っています！

周辺マップ

コストコホールセール つくば倉庫店

会員制。あるもの全てが巨大なので一人暮らしで利用するには少しハードルが高いかも…？
複数人で食べる際の買い出し先の選択肢としては最高

iiias つくば

自転車で行ける距離にある、大型複合施設。映画館に洋服屋さん、カフェや本屋さん、家電量販店などなんでも揃っている。

タイヨー 学園の森店

スーパーマーケット。やや遠い場所にあるが、それでも通い続けるような魅力がある。肉と魚がとても安い。

ハードオフ・オフハウス

つくば研究学園店

いろんな中古品が売っている。楽しい。

MEGA ドン・キホーテ つくば店

買い出しの強い味方(?)

つくば温泉 喜楽里 別邸

温泉!! ゆったりとした時間が過ごせる

スーパーセンタートライアル

つくば学園都市店

24時間営業、生活リズムの崩れた学生の強すぎる味方。食料品の価格も低い他、生活用品売り場がとても充実しているのも魅力的。現金決済しか出来ないことに注意。

中央図書館

入り口にはスターバックスが併設されている。

学術情報・メディアセンター

体芸図書館

体育専門学群・芸術専門学群の分野の本が多くおかれている、なんだか内装もおしゃれ。

カスミ 筑波大学店

通称平カス。大学構内にあるため、アクセスがよい。自転車の空気入れがあるのも良いところ。現金が使えないことに注意!

筑波大学春日エリア

私たちの主に利用する場所。詳しくは前ページへ

つくば駅

つくばの玄関口。併設された建物の中にはレストラン、ロピア(スーパー)、本屋など多くのものがそろっており、便利。

WonderGOO TSUTAYA つくば店

近場の本屋。文房具売り場やゲーム売り場なども広く取られている。

用語集

ア行

アパ民 [あぱみん]

アパートに住んでいる人の通称。

天久保 [あまくぼ]

地名。筑波大生が多く生活している。

一の矢 [いちのや]

地名。または一の矢宿舎の通称。通称「のや」。春日エリアの反対側に位置するため、春日の人にはあまり馴染みがない。

IMAGINE THE FUTURE. [いまじんざ]

ふゅーちゃー]

筑波大の掲げるスローガン。略して ITF.

筑波大の略称替わりに使われたりする。ドットまで含めます。

追越 [おいこし]

追越宿舎の通称。klis や mast の学生が入居することもある。

カ行

学内循環バス [がくないじゅんかんば]

す]

ループ(ラ行参照)を走るバス。筑波大生は年間9500円(正規の定期運賃の約1/10の価格)で乗り放題。時間通りに来ないことが多いため注意が必要。

学費 [がくひ]

石の広場の近くにある噴水。有志によって湧くタイミングが研究されている。

春日 [かすが]

地名。または筑波大学筑波キャンパス春日エリアの通称。klis と mast を総称して「春日」と呼ぶこともある。

春日クラ代 [かすがくらだい]

春日エリアクラス代表者会議の略。klis と mast が合同で、春日エリア内の様々な問題を解決するために活動している。

春日食堂 [かすがしょくどう]

春日エリア内にある食堂。授業のオンライン化に伴って利用者が減っているそうなので、積極的に利用しよう。

KdB もどき [けーでいーびーもどき]

mast21 の一人が入学してまもない頃に完成させたkdbの代替サイト。全筑波大がざわめいた。今でも有志によってバージョンアップされている。

サ行

宿舎民 [しゅくしゃみん]

宿舎に住む人の通称。

スポデー [すぽでー]

スポーツ・デーの略。年2回行われる学内行事で、毎年様々なスポーツ種目を通じて、学校全体で盛り上がる。

絶起 [ぜっき]

「絶望の起床」の略。大事な予定があるのに寝坊して遅刻が確定した時などに用いられる。気をつけよう。

ゼミ [ぜみ]

卒業研究のために行われる、少人数での活動。研究室に入り卒業研究を行わなければ、卒業することはできない。

全学計算機 [ぜんがくけいさんき]

筑波大の学生が使うパソコンのこと。ハイスペックでさまざまなソフトも入っているため、授業以外で活用することもできる。

全代会 [ぜんだいかい]

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議の略。通称Z(ぜっと)。高校の生徒会のレベルアップバージョンのようなもの。大学全体の学生のために動いている組織。

雙峰祭 [そうほうさい]

11月頃に行われる筑波大学の学園祭。実行委員会は学実委とも呼ばれる。毎年広大なキャンパスを生かした大規模な学園祭となる。

タ行

宅通(多苦痛) [たくつう]

自宅から大学へ通っている人の通称。その過酷さから「多苦痛」とも表記される。

脱獄 [だつごく]

宿舎から脱出する際に使う。春日宿舎はいいところなのであまり聞かない。たぶん。

Teams [ちーむず]

Twitter [ついったー]

筑波大生のお供。情報はだいたいここで手に入れる。夏頃から人が減ってらしい…。

つくばっく・つくばいばい

つくばに帰ってきたことやつくばを出ることを指す際に用いることがある。

TX [ていーえっくす]

つくばエクスプレスの略。高い。都心へ赴く時にお世話になる。

図情図書館 [とじょうとしょかん]

図書館情報学図書館の通称。筑波キャンパス内には他にも、中央図書館、医学図書館、体育・芸術図書館が存在する。

ハ行

博士号 [はくしごう]

「ある筑波大生」がルールの穴をかいくぐって松見池に設置したスワンボート。大雨の日に漂流していたことがある。

平砂 [ひらすな]

平砂宿舎の通称。

ペデ

ペDESTリアンデッキの略。信号はないけど起伏が多い。

ほけかん

保健管理センターの略。学生は基本的に一般的な病院よりもかなり安く診療してもらえる。

本学 [ほんがく]

筑波大の本学。春日とは一区分離れている。春日エリアこそが本学であると主張する勢力もいる。

ヤ行

やどかり祭 [やどかりさい]

宿舎祭ともいう。主に1年生を中心に出店したり神輿を作ったりする。「ゆかコン」という浴衣とパフォーマンスのミスコンも開催される。

ラ行

ラーニングコモンズ

通称 LC。図情図書館内に存在する。チューターと呼ばれる学生が、課題などの相談にのってくれる。パソコンも置いてある。

ラーメン

美味しい。つくばにはたくさんのラーメン屋があります。

ラウンジ

春日食堂横にある自由に使えるスペース。机や椅子があり、パンやカップラーメン等の自動販売機がある。

ループ

筑波大を一周する道路。バスが循環している。

Respon [れすぽん]

出席確認するやつ。オンラインの授業で使われたりする。見落とすと欠席扱いになってしまうので十分注意。

発行

情報メディア創成学類長
知識情報・図書館学類長

作成

春日地区クラス代表者会議
かすがらいふ編集委員

ご協力

情報メディア創成学類の教員の皆様
知識情報・図書館学類の教員の皆様
図書館情報エリア支援室の職員の皆様
春日地区クラス代表者会議
過去のかすがらいふ編集委員の皆様
特に、「履修の手引き」をはじめとする一部文章や
構成などをお借りした昨年の編集委員の皆様
その他、ご協力いただいた全ての皆様

印刷

朝日印刷株式会社様